

2021年度(第55次)

研究助成 募集要綱

1 研究助成の目的

“広告・広報・メディアを中心とするマーケティング及びコミュニケーション等”に関する研究助成を通じてその理論・技術及び知識・情報の普及・発展を図り、もって学術・文化・経済の持続的発展及び一般消費者の利益の増進に資することを目的とする。

2 助成対象者・助成金額・助成件数

“広告・広報・メディアを中心とするマーケティング及びコミュニケーション等”に関連する研究に携わる研究者で、助成を受ける期間中、大学に所属する者。

- (1) 常勤研究者の部 …………… [対 象 者] 大学に在職する助教以上の常勤研究者(個人またはグループ研究)
○グループ研究の場合、代表研究者が大学在職の常勤研究者であれば可。
[金 額] 単年研究300万円以内/件、継続研究400万円以内/件
[件 数] 10件程度
- (2) 大学院生の部 …………… [対 象 者] 博士後期課程に在籍する大学院生(個人またはグループ研究)
[金 額] 単年研究50万円以内/件、継続研究60万円以内/件
[件 数] 10件程度
○大学院生は指導教官(教員)の推薦書を必ず添付すること。

ただし過去10年間(2011年~2020年)に常勤研究者の部において単独または代表研究者・共同研究者として合計3回以上助成を受けている研究者は原則として対象外とする。

- 大学院生の部から常勤研究者の部へ異動した場合は、大学院生の部の回数は含まない。
- 継続研究は1回の助成とみなす。

代表研究者および共同研究者は次の者を言う。

- 代表研究者** 助成研究の遂行およびその費用の管理に関し全ての責任を負う者であって、助成を受ける期間中、大学に所属する者。
- 共同研究者** 代表研究者とともに助成研究の遂行に責任を負い、代表研究者からの委託により研究費を使用できる者。

3 研究課題(常勤研究者の部、大学院生の部共通)

(1) 自由課題(“研究助成の目的”に記載した分野に関連する研究課題を自由に設定)

(2) 指定課題(詳細は別紙参照)

- 1) 消費者との効果的なコミュニケーションを行う方法に関する研究
- 2) 広告・コミュニケーション研究やマーケティング研究の新たな方法論の開発につながる他領域における関連研究
- 3) パンデミックがもたらしたインパクトに関する研究

4 研究期間(常勤研究者の部、大学院生の部共通)

- (1) 単年研究 …………… 1 年以内 (2021年4月1日～2022年3月10日)
- (2) 継続研究 …………… 2 年以内 (2021年4月1日～2023年3月10日)

5 助成金の使途

研究に必要な資料費、調査費、消耗品費、研究補助者等が直接研究に要した時間・工数に対する報酬、謝礼などに充当される支出とする。

なお、大学院生の部に関しては研究環境に配慮し、下記①～③の使途制限・制約を超える申請についても、選考委員会で柔軟に判断する。

- ① パソコン・プリンター・カメラなどの機器(耐久財)、分析ソフト(SPSSなど)の購入費は原則として助成の対象外とする。ただし選考委員会が研究実施に必要と判断したときは、助成金からの支出を認める。
- ② 交通費、出張旅費、宿泊費の合計金額は、原則として助成金総額の4分の1を限度とする。
- ③ 学会関連費(参加費・交通費等)および成果発表費(投稿料等)は助成の対象外とする。
- ④ 研究補助者等に対する報酬の支出については、会計報告時に出勤簿等の内容を明示する書類を提出すること。
- ⑤ 調査やプログラム開発等を外部発注する場合は見積書を申込書に添付すること。ただし助成の対象は調査の外部発注のうち調査実施費用のみとし、分析費・レポート費は対象外とする。調査の外部発注は、P4に記載した各社でも相談可能。
- ⑥ 同一研究課題における他の助成金(科学研究費、その他民間助成金等)との併用は認めない。
- ⑦ 所属大学への委任経理を希望で間接経費が発生する場合は、助成金額の一部として計上する。ただし助成金額の上限は変わらない。
- ⑧ 継続研究で研究計画上、初年度と次年度で不均等な助成金の配分が必要となる場合は、2年間の助成金総額の25～75%の範囲内で1年度分に配分できることとする。

(例) 常勤研究者の部: 総額400万円(初年度100万円/次年度300万円)
大学院生の部: 総額60万円(初年度45万円/次年度15万円)

6 助成研究支援のための消費者調査

当財団では助成研究支援のため、個別カスタマイズ調査を含む以下の2段階の消費者調査を実施する。希望者は助成金に加えて、利用が可能。詳細は当財団ホームページ募集ページ上の「財団提供調査について」を参照のこと。

① 財団専用のモニターパネルによる共通調査

②の個別カスタマイズ調査に先行して実施する共通調査。財団指定質問。

[調査地域] 首都圏+近畿圏 [調査対象] 満15歳～65歳の男女個人 [回収件数] 5,000件
[設問内容] 対象者属性、情報行動、消費行動、生活意識、価値観など65～70問程度

② 助成対象者ごとの個別カスタマイズ調査

①の共通調査を活用した助成対象者の自由質問。

[調査対象] 上記の共通調査の回答者から抽出することを想定。

調査①のデータと回答者IDによってマージが可能。

[調査設計] 次の5パターンから選択。その他の調査設計も対応可。 ※調査時期、地域については相談可

パターンA ……『設問数15問、回収件数2,500件』

パターンB ……『設問数30問、回収件数1,000件』

パターンC ……『設問数50問、回収件数500件』

パターンD ……『設問数15問、回収件数500件』の調査を2回実施

パターンE ……インタビューや実験参加者20名のリクルーティング

7 選考方法・選考委員

次の14名の選考委員により慎重に選考の上、2021年3月下旬開催の当財団理事会で決定する。

選考委員長	亀井昭宏	早稲田大学名誉教授	選考委員	澁谷 覚	学習院大学教授
選考副委員長	仁科貞文	青山学院大学名誉教授	選考委員	嶋村和恵	早稲田大学教授
選考委員	青木貞茂	法政大学教授	選考委員	清水 聰	慶應義塾大学教授
選考委員	阿久津聡	一橋大学大学院教授	選考委員	田中 洋	中央大学大学院教授
選考委員	井上哲浩	慶應義塾大学大学院教授	選考委員	疋田 聰	東洋大学名誉教授
選考委員	岸志津江	東京経済大学教授	選考委員	南知恵子	神戸大学大学院教授
選考委員	里村卓也	慶應義塾大学教授	選考委員	吉見俊哉	東京大学大学院教授

8 選考結果の発表

2021年4月上旬に応募者あて個別に採否を通知する。

9 助成研究の進捗状況報告等

研究期間中、助成対象者は当財団の指定する時期に進捗状況を当財団で報告する。

継続研究の場合は、初年度終了時点で選考委員に対して経過報告を行い、次年度継続の承認を得るものとする。

10 研究成果の報告

- (1)研究成果本文 常勤研究者の部 **3万字程度以上** / 英文の場合、6万characters程度以上
大学院生の部 **2万字程度以上** / 英文の場合、4万characters程度以上
- (2)要旨 8,000字程度
- (3)概要 ①当財団広報誌『アド・スタディーズ』掲載用 1,300字程度
②広告図書館検索用 2,000字程度
- (4)助成金の使途明細(領収書を添付)

以上4点を研究期間内に日本文または英文で提出すること。

- 指定期日までに提出されない場合は、助成金の返還を求められることがある。
- 上記報告書類の提出前には原則として研究成果を一般に発表しないこと。
- 報告書類提出後に発表する場合には、この研究が吉田秀雄記念事業財団の助成を受けた旨を明記すること。
- (1)の研究成果本文は論文形式によるものとする。ただし**本成果論文はワーキングペーパーの扱いであり、博士論文としての提出や学術誌への投稿を妨げない。**
- (1)にかかわらず選考委員会が認めるときは、研究成果の文字数や体裁はこの限りではない。

11 応募手続

- (1)応募方法 申込書に必要事項を記入のうえ、
財団宛て郵送またはEメールにて送付のこと。
● 大学院生は指導教員の推薦状を提出すること。
● 調査やプログラム開発等を外部発注する際の見積書については、
申込書とともに応募期間内に提出すること。
- (2)応募期間 2020年12月1日(火)～2021年1月12日(火)(必着)
- (3)応募先・問合せ 公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団
[Eメールによる応募先] rga2021@yhmf.jp
〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-17 電通銀座ビル4F
TEL (03)3575-1384

12 「助成研究吉田秀雄賞」の授与

優れた研究成果には選考委員会の審査により以下の「助成研究吉田秀雄賞」を授与する。

【常勤研究者の部】 吉田秀雄賞……賞状・副賞 100万円
準吉田秀雄賞……賞状・副賞 50万円
奨励賞……賞状・副賞 10万円

【大学院生の部】 吉田秀雄賞……賞状・副賞 30万円
準吉田秀雄賞……賞状・副賞 20万円
奨励賞……賞状・副賞 10万円

※相談可能な調査会社（他社でも可）

マイボイスコム株式会社 ————— 企画営業グループ第1チーム 野口智也
E-mail: tnoguchi@myvoice.co.jp
Tel: 03-5217-1911

株式会社インテージ ————— カスタマー・ビジネス・ドライブ本部 第2営業部 吉田佳音
E-mail: yoshida-knn@intage.co.jp
Tel: 03-5294-8431

株式会社電通マクロミルインサイト — ビジネスプロデュース部ビジネス開発2グループ 中村公法
E-mail: k.nakamura@dm-insight.jp
Tel: 080-3701-4728

〈応募にあたっての注意事項〉

- (1) 特定企業・団体の営利に資するような研究は、助成の対象外とする。
- (2) 応募は、単独、代表者・共同研究者にかかわらず1名につき1件に限る。
- (3) 審査は申請者名を伏せて行うため、個人情報を入力するNo.1(p1)を除き、申込書に申請者（代表研究者）の氏名を記さないこと。ただし共同研究者はこの限りではない。
- (4) 申請者あるいは共同研究者が所属する企業・団体に調査等業務を発注する場合には、見積書の他にその理由と必要性を申込書に明記すること。
- (5) 申込書の記載に不備や虚偽があった場合は、失格となることがある。

以上

**第50回（2021年度）
三菱財団人文科学研究助成
応募要領**

1. 助成の趣旨

成熟社会における多様性に注目が集まる中で、教養教育の重要性が指摘され、「心の豊かさの醸成」がより求められる時代を迎えています。

本財団では、学術研究助成の一環として、人文社会系領域での基礎的かつ着実な実証研究を支援します。

2. 助成の概要

人文科学研究助成において、通常の人文科学研究助成（以下、「一般助成」という）に加え、「社会的課題解決のための大型連携研究助成」（以下、「大型連携研究助成」という）を行います。なお、本財団は男女共同参画社会基本法の趣旨に賛同しております。

<「大型連携研究助成」について>

「大型連携研究助成」として、異なる専門領域の複数のメンバーの方がチームを形成し、同一の社会課題解決のため、より多角的に、連携してダイナミックに挑戦する提案型の応募に対する助成を実施します。「大型連携研究助成」の応募につきましては、助成金額、期間等について、より柔軟に対応します。既成概念を破るチャレンジに期待します。

「大型連携研究助成」の応募の場合、助成申込書入力時に該当欄にチェックを入れ、併せて助成申込書の「チームの体制」欄にチーム構成を入力のうえ、申請して下さい。なお、「大型連携研究助成」にあたるか否かについては、ホームページにあります「社会的課題解決のための大型連携研究助成について」を参考の上、ご判断下さい。

① 研究分野

人文学分野、及びそれに関連する分野からなる、人文社会系研究全般を対象とします（申込分野コードとして2018年度の科学研究費の審査区分を使用しています）。

② 応募資格

- イ. 原則として、特定のテーマの、個人ないしは少人数のグループまたは法人・団体による研究とします（「大型連携研究助成」の場合は複数の領域の研究者（実践者）のチームとなります）。応募者の国籍等は問いませんが、当該代表研究者が日本国内に居住し、かつ国内に継続的な研究拠点を有することが必要です。
- ロ. 営利企業等及びその関係者は、代表研究者、申込法人・団体及び協同研究者になれません。
- ハ. 代表研究者及び協同研究者は、本財団の同一年度の助成に複数応募することは出来ません。従って、代表研究者が（他分野も含め）他の応募案件の協同研究者を兼務したり、協同研究者が他の応募案件の協同研究者を兼務することも出来ません。

(協同研究者の方には上記の確認も含め、必ず了承を得ておいて下さい。)
なお、複数応募が判明した場合は、失格となることがあります。

③ 助成金額

「一般助成」「大型連携研究助成」合わせて総額約6,000万円を予定、採択予定件数は合計25～30件程度を目途とし、うち「大型連携研究助成」は1～2件程度を目途とします。応募金額については、「一般助成」は1件当り上限500万円、「大型連携研究助成」は1件当り上限1,000万円とします。他方、「一般助成」においては、研究の性質上比較的小額で足りる内容のものも充分考慮されます。

④ 助成金使途

「一般助成」「大型連携研究助成」共に応募対象研究に必要な書籍、文書、設備・備品、消耗品の購入費等とします(なお、代表研究者・代表者に、助成金使用に係わるすべての管理責任を持って頂きます)。

イ. 旅費は、代表研究者・代表者及び協同研究者への支払いのみ可能です。

ロ. 研究上特に必要な場合は、研究補助者への謝金支払いを可とします。なお、代表研究者・代表者及び協同研究者については、謝金・人件費の支払いは認められません。

ハ. 印刷・製本・出版関係費用も、本研究に関わるものに限ります。

(出版のみを目的とした申込は対象外となります。)

ニ. なお、応募者が所属する組織等の間接経費・一般管理費等は助成の対象になりません。

⑤ 助成期間

助成決定から1年を原則としますが、事情により期間2年にわたる使用も認められます。なお、「大型連携研究助成」においては案件内容により期間3年まで認めることもあります(複数年度分の助成申込を一括査定し、助成金は各年に分けて使用されることとなります)。

⑥ 選考協力等

所定の申込書、資料に加え、更に詳しい書類等の提出をお願いしたり、面接をさせて頂くこと等がありますのでご協力下さい。(ご提出頂いた資料等は返却致しかねますので、あらかじめご了承下さい)

⑦ 面接

大型連携研究助成については、選考の一環として助成の候補となられた方に面接を実施させて頂きます。また、一般助成の一部の方についても必要に応じて面接をさせて頂くことがあります。面接には、原則として代表研究者の方、及び連携される協同研究者がおられる場合は協同研究者の方等1～2名の方にご出席頂きます。2021年度の面接日は2021年4月12日(月)を予定しています。

面接対象となられた方には、3月26日(金)までにメールでご連絡させて頂きます(面接対象となられなかった方へのご連絡はありません)。

なお、面接連絡の有無、審査の進捗状況についてのお問い合わせには、回答致しかねますのでご了承下さい。また、新型コロナウイルス感染症の状況により、面接日、面接方法等が変更となることがあります。

⑧ 助成決定時の義務・条件

- イ. 選考の結果、助成対象者となられた場合は、財団所定の「助成承諾書」を別途提出頂き、これにより研究経過・完了の報告、収支会計報告、その他使途変更事前相談手続等の義務を負って頂くことになります。
- ロ. 研究の経過・完了報告については、その一般公開についての同意をお願い致します。
- ハ. 助成金贈呈式を2021年9月13日(月)に予定しています。贈呈式には助成金受領者ご本人にご出席頂くことになります。原則、代理出席は認めておりません。

3. 選考方法・結果通知等

① 選考方法

財団委嘱の下記委員からなる選考委員会において慎重審議の上、その答申案に基づき、2021年6月開催予定の財団理事会において正式決定されます。審査の進捗状況についてのお問い合わせには、回答致しかねますので、ご了承下さい。

(選考委員)

谷 本 雅 之 (委員長)	岩 波 敦 子
石 川 禎 浩	福 永 伸 哉
下 田 正 弘	

(敬称略)

(専門委員)

助成申込の内容によっては適宜専門委員を委嘱します。

② 結果通知等

- イ. 結果は決定後すみやかに申込者各位宛にメールで通知されます。なお「助成先一覧」は、本財団インターネットホームページ上に掲載するほか、各種学術関係広報資料(科学新聞、学会ニュース等)にも掲載を依頼致します。
- ロ. 採否の理由についてのご照会には一切回答致しかねますのでご了承下さい。

4. 応募期間

2020年12月16日(水)～2021年1月13日(水)午後5時

*上記応募期間内にのみ応募は可能です(締め切り時間厳守のこと)。なお、応募締め切りの直前は、Webシステムの回線が混雑して送信できない可能性がありますので、お早めにご応募下さい。

5. 応募方法

応募にあたっては、別冊「応募手順」に基づき、本財団インターネットホームページ（以下、本財団ホームページ）上の Web システムでマイページの登録のうえ、手順に従って Web システムで応募して下さい。

[ホームページアドレス] <https://www.mitsubishi-zaidan.jp>

<応募手順>

- ① マイページの登録
- ② 「助成申込書」の入力・作成
- ③ 「助成申込内容」の作成及びアップロード
- ④ 「最重要論文」のアップロード
- ⑤ 定款・寄附行為等のアップロード（法人・団体申し込みの場合）
- ⑥ 所属機関長の承認
- ⑦ 応募申請と受付の確認

<ご注意>

- * 本財団ホームページ上の Web システムでの申請のみで応募は完了となります。
（電子メール、郵送、ご来所、FAX による応募は受け付けておりません。）
- * 応募完了後は助成申込書、助成申込内容、論文の修正・差し替え等は一切できませんので、応募の申請にあたっては必ず内容をご確認下さい。
- * 「ご応募の際によくある質問と回答」を本財団ホームページ上の「応募 Q&A」に掲載していますので、ご参照下さい。

Web 操作に関するお問い合わせは、原則メールで、ヨシダ印刷株式会社 三菱財団サポート担当までお願いします。その際、マイページを取得されている場合は、ログイン ID を記載して下さい。

E-mail. mitsubishi-zaidan@yoshida-p.co.jp

Tel. (03) 3626-1307（平日 午前 9 時～午後 5 時）

6. 個人情報取扱いについて

- ① 個人情報は利用目的の範囲内で、かつ業務遂行上必要な限度内で利用致します。
- ② 法令等の定める場合を除き、事前に本人の同意を得ることなく個人情報を第三者に提供致しません。

7. 反社会的勢力からの応募について

反社会的勢力および反社会的勢力と関係すると認められる個人もしくはグループからの応募は受け付けられません。

【お問い合わせ先】

お問い合わせは、原則メールでお願いします。なお、マイページを取得されている場合は、ログインIDを記載して下さい。

公益財団法人 三菱財団事務局

〒100-0005 東京都千代田区丸の内2丁目3番1号（三菱商事ビル21階）

E-mail. info@mitsubishi-zaidan.jp

Tel. (03) 3214-5754

追記 参考資料として、本財団第47回以降、過去3年度分の助成先一覧を添付します。

応募件数と同金額は以下の通りです。

2018年度 313件 737百万円

2019年度 391件 1,205百万円(うち大型連携研究助成36件306百万円)

2020年度 308件 850百万円(うち大型連携研究助成21件174百万円)

以上

2020年11月

公益財団法人 三菱財団

第47回（平成30年度）三菱財団人文科学助成先一覧

番号	所在地	名 称	使 途	金 額
1	東京都	一橋大学大学院社会学研究科 教授 上田 元（うえだ げん）	タンザニア農地林業の対ケニア・パ リ्यूチェーン：商人の活動戦略と生 産者組織化の射程	3,800,000円
2	東京都	早稲田大学政治経済学術院 准教授 上田 路子（うえだ みちこ）	自殺報道の過去30年間の変遷とその 影響：5カ国データの比較実証研究	3,000,000円
3	福岡県	九州大学大学院法学研究院 助教 大谷 彬矩（おおたに あきのり）	刑事施設における処遇の位置づけに着 目した社会復帰理念の具体化に関する 研究	1,000,000円
4	広島県	広島大学大学院総合科学研究科 准教授 春日 あゆか（かすが あゆか）	汚染者としての市民－近代イギリスの 煤煙問題－	1,300,000円
5	愛知県	名古屋大学博物館 講師 門脇 誠二（かどわき せいじ）	ネアンデルタール人消滅と新人拡散の プロセスに関する考古学研究：ヨルダ ンの旧石器遺跡調査	1,500,000円
6	東京都	東京工業大学リベラルアーツ研究教育 院 准教授 川名 晋史（かわな しんじ）	在日米軍基地の撤退に関する史的考察 －福岡と北海道を事例に	1,300,000円
7	福島県	福島大学行政政策学類 教授 菊地 芳朗（きくち よしお）	律令体制確立期の北辺地域における地 域間交流解明の考古学的研究	2,100,000円
8	京都府	立命館大学先端総合学術研究科 教授 岸 政彦（きし まさひこ）	戦後沖縄社会の構造変容－戦争体験と 戦後の生活史の実証分析	1,600,000円
9	東京都	東京大学大学院教育学研究科 准教授 北村 友人（きたむら ゆうと）	競争から協働へ：中国都市部における 「学校間協力」の仕組みの構築に関す る社会学的研究	1,800,000円
10	東京都	一般財団法人行政管理研究センター行 政研究所 研究員 黒澤 良（くろさわ りょう）	小泉内閣期における「官邸主導」と自 民党 未公開議事録に基づく共同研究	900,000円
11	東京都	文化学園大学文化ファッション研究機 構 共同研究員 児玉 絵里子（こだま えりこ）	琉球舞踊と綾子舞－芸能比較対照研究 による古歌舞伎踊の系譜考、琉舞と小 歌踊系民俗芸能の民族芸術学的考察	3,000,000円
12	東京都	東京大学大学院人文社会系研究科 教授 小林 真理（こばやし まり）	ドイツにおける過去の芸術文化政策の 記憶の継承と現代の芸術文化政策への 影響について	1,700,000円
13	茨城県	筑波大学人文社会系 助教 塩谷 哲史（しおや あきふみ）	ニコライ1世期ロシア帝国のアジア外交	1,100,000円

（代表研究者50音順、以下同じ。）

番号	所在地	名 称	使 途	金 額
14	愛知県	名古屋大学大学院法学研究科 学術研究員 新地 真之 (しんち まさゆき)	インドネシアにおける遺伝資源関連の 伝統的知識をめぐるABS国内法整備に関 する研究	1,500,000円
15	奈良県	奈良県立橿原考古学研究所 所長 菅谷 文則 (すがや ふみのり)	中国山東省斉国故城から新たに出土し た鏡範の調査研究	2,500,000円
16	東京都	内閣府迎賓館総務課 上席政策調査員 鈴鴨 富士子 (すずかも ふじこ)	日本近代洋風建築における室内装飾と しての絵画の保存修復－国宝 旧東宮 御所(迎賓館赤坂離宮)を中心に－	1,000,000円
17	東京都	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授 高岸 輝 (たかぎし あきら)	戦国時代の絵画制作にみる都鄙間交流 と文化の全国波及	2,900,000円
18	京都府	京都大学大学院文学研究科 教授 高嶋 航 (たかしま こう)	満洲国とスポーツ：国際承認と国民統 合の戦略	2,300,000円
19	滋賀県	滋賀県立大学人間文化学部 准教授 武田 俊輔 (たけだ しゅんすけ)	限界集落における祭礼・民俗芸能の継 承と再編成－住民・他出者・移住者・ ボランティア間の関係性に注目して	1,100,000円
20	福島県	いわき明星大学教養学部 教授 土谷 幸久 (つちや ゆきひさ)	イノベーションコースト構想による浜 通り復興過程の研究	1,100,000円
21	京都府	京都大学東南アジア地域研究研究所 連携講師 外山 文子 (とやま あやこ)	新興国における汚職取締の政治学	2,600,000円
22	東京都	上智大学法学部 教授 永野 仁美 (ながの ひとみ)	日仏伊芬における精神保健政策の比較 研究－地域精神医療の実践を目指して －	3,600,000円
23	北海道	北海道大学大学院経済学研究院 教授 橋本 努 (はしもと つとむ)	新しい中間層の可視化理論とその実証 分析：リベラル派中間市民(コモン・シ ティズン)の新たな供給源を探る	2,800,000円
24	東京都	上智大学経済学部 准教授 細萱 伸子 (ほそがや のぶこ)	日本人女性SIEsにおけるグローバル キャリアの発展と行動特性の関連に関 する研究	1,000,000円
25	京都府	京都大学大学院文学研究科 非常勤講師 増永 理考 (ますなが まさたか)	公的恵与にみるローマ帝政前期小アジア 都市社会をめぐる研究－リュキア地 方を中心に－	1,100,000円
26	山口県	山口県立大学看護栄養学部 教授 増成 直美 (ますなり なおみ)	フィンランドにおける診療情報の二次 利用	1,300,000円
27	宮城県	東北大学災害科学国際研究所 准教授 松本 行真 (まつもと みちまさ)	民衆知と非日常行動の比較社会学的研 究	3,800,000円

番号	所在地	名 称	使 途	金 額
28	静岡県	静岡県立美術館学芸課 学芸課長 三谷 理華 (みたに りか)	ラファエル・コランの公共建築装飾面 をめぐる基礎的調査・研究	1,100,000円
29	大阪府	阪南大学国際コミュニケーション学部 教授 守屋 友江 (もりや ともえ)	鈴木大拙関係松ヶ岡文庫所蔵資料から みた近代禅仏教のネットワークに関する研究	2,000,000円
30	京都府	京都大学大学院経済学研究科 教授 矢野 剛 (やの ごう)	新興国におけるイノベーションを促進 する金融システムの探求－中進国の畏 からの脱出－	1,700,000円
31	東京都	東京大学大学院人文社会系研究科 教授 吉澤 誠一郎 (よしざわ せいいちろう)	中国ナショナリズム運動の地域的・国 際的背景：日中関係史の視点から	1,200,000円
32	山形県	山形大学農学部 准教授 渡辺 理絵 (わたなべ りえ)	産物データを用いた東北地方の過去の 動植物の分布相とその変化に関する研 究	1,300,000円
合 計				32 件 60,000,000円

第48回（2019年度）三菱財団人文科学研究助成先一覧

【大型連携研究助成】＜50周年記念特別助成＞

番号	所在地	名 称	使 途	金 額
1	東京都	公益財団法人東洋文庫研究部 研究員 飯島 渉 (いいじま わたる)	20世紀後半の東アジアにおける風土病の制圧過程の検証と疫学的資料の整理・保存・公開	5,000,000円
2	東京都	首都大学東京大学院人文科学研究科 教授 丹野 清人 (たんの きよと)	基礎自治体からアプローチする外国人労働者長期定住化時代における多文化共生社会の実践知	6,000,000円
3	東京都	国立成育医療研究センター分子内分泌研究部 部長 深見 真紀 (ふかみ まき)	ヒトのこころの性の多様性とその修飾因子の解明	9,000,000円

【一般助成】

番号	所在地	名 称	使 途	金 額
4	東京都	東京大学文学部 助教 青野 道彦 (あおの みちひこ)	上座部戒律文献の批判校訂版作成のための基盤構築	600,000円
5	東京都	東京大学大学院医学系研究科 教授 赤林 朗 (あかばやし あきら)	「医療の目標」の現代的変遷とそれに関わる倫理的問題の研究	2,520,000円
6	石川県	石川県立看護大学看護学部 特任教授 浅見 洋 (あさみ ひろし)	西田幾多郎ノート類資料の翻刻と研究資料化	1,440,000円
7	宮城県	東北大学大学院国際文化研究科 准教授 池田 亮 (いけだ りょう)	英米覇権による「開かれた国際海洋秩序」の歴史的展開：「海洋の自由」の概念を中心に	2,000,000円
8	静岡県	静岡大学情報学部 助教 板口 典弘 (いたぐち よしひろ)	ディープラーニング技術を用いた失語症患者の音声認識システム開発	1,220,000円
9	東京都	早稲田大学政治経済学術院 教授 稲継 裕昭 (いなつぐ ひろあき)	中央政府における生産性測定に向けた指標の構築に関する研究	1,200,000円
10	北海道	北海学園大学経済学部 講師 牛久 晴香 (うしく はるか)	アフリカ農村の輸出向け手工業の内発的な発展プロセスに関する研究	1,140,000円
11	東京都	東京大学社会科学研究所 准教授 加藤 晋 (かとうすすむ)	社会思想と厚生経済学	2,100,000円
12	北海道	北海道大学大学院農学研究院 准教授 加藤 知道 (かとうともみち)	稲刈帳による近世のコメ収量復元およびその気候変動との関係の解明	900,000円

番号	所在地	名 称	使 途	金 額
13	埼玉県	一橋大学経済学研究科 名誉教授 加藤 博 (かとう ひろし)	砂漠に消えた革命 近代エジプトの遊牧民蜂起	1,600,000円
14	長崎県	長崎総合科学大学共通教育部門 准教授 木永 勝也 (きなが かつや)	戦後長崎における被爆者運動・平和運動に関する資料調査を通じた核・被ばく学研究の基盤形成	1,740,000円
15	東京都	一橋大学大学院社会学研究科 教授 小井土 彰宏 (こいど あきひろ)	後発的移民国の社会統合政策の比較—スペインと日本における多文化共生政策の制度化と実践を焦点として	1,440,000円
16	京都府	京都大学大学院経済学研究科 准教授 高野 久紀 (こうの ひさき)	経済発展と市場の発達：マダガスカル の米市場における仲介業者の機能	3,000,000円
17	京都府	佐竹 真城 (さたけ しんじょう)	中世浄土教の研究—称名寺聖教の未翻刻典籍を中心に—	570,000円
18	東京都	公益財団法人東洋文庫 文庫長 斯波 義信 (しば よしのぶ)	モリソン・コレクションの学際的・総合的研究：近代東アジア史と「アジア文庫」形成の資料的分析	2,100,000円
19	神奈川県	神奈川大学外国語学部 准教授 鈴木 祐一 (すずき ゆういち)	多文化共生社会のための移民の日本語習得に関する縦断的研究：学際的アプローチ	2,820,000円
20	東京都	日本大学通信教育部 教授 高網 博文 (たかつな ひろふみ)	修正主義的歴史観に抗する「グレーゾーン」研究：アジア・欧州の国際比較と実証分析	1,500,000円
21	京都府	鄭 祐宗 (ちよん うちよん)	裁判資料を活用した占領期民衆社会史研究—阪神地域と関門地域を中心に—	600,000円
22	東京都	東京大学大学院人文社会系研究科 教授 陳 捷 (ちん しょう)	中国に渡った日本の版木とそれによる印本に関する総合的研究	1,500,000円
23	京都府	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 東長 靖 (とうなが やすし)	イスラームの多文化共生の知恵—周縁イスラーム世界のスーフイズムに着目して	3,000,000円
24	神奈川県	慶應義塾大学大学院社会学研究科 日本学術振興会特別研究員PD 中村 江里 (なかむら えり)	近代日本の精神医療アーカイブズを用いた学際的研究	3,000,000円
25	秋田県	国際教養大学アジア地域研究連携機構 准教授 根岸 洋 (ねぎし しょう)	縄文／弥生移行期の低湿地遺跡から復元する環境変動適応史	2,100,000円
26	滋賀県	滋賀県立琵琶湖博物館研究部 専門学芸員 橋本 道範 (はしもと みちのり)	日本中世淡水魚消費の研究	2,660,000円

番号	所在地	名 称	使 途	金 額
27	東京都	東京大学未来ビジョン研究センター 専任講師 華井 和代 (はない かずよ)	コンゴの紛争資源問題と性暴力に対する先進国の責任	3,000,000円
28	東京都	上智大学国際言語情報研究所 客員研究員 藤本 雅子 (ふじもと まさこ)	南琉球宮古島方言の音声の音響・調音特徴	600,000円
29	東京都	東京大学未来ビジョン研究センター 教授 藤原 帰一 (ふじわら きいち)	気候変動と水資源をめぐる国際政治のネクサスー安全保障とSDGsの視角から	3,000,000円
30	長野県	牧 義之 (まき よしゆき)	日本の戦前・戦中期における言論統制と市民の知る自由に関する研究ー公共図書館での閲覧制限措置を中心にー	1,500,000円
31	千葉県	国立歴史民俗博物館研究部 教授 松尾 恒一 (まつお こういち)	日本列島の山村における環境・生業と、信仰・民俗宗教の研究ー中国・四国地方の山村を中心に	630,000円
32	北海道	小樽商科大学商学部 教授 松本 朋哉 (まつもと ともや)	モバイルマネーを利用した教育支援マッチングファンドに関する実証研究：バングラデシュにおけるフィールド実験	2,500,000円
33	東京都	中央大学文学部 准教授 宮間 純一 (みやま じゅんいち)	地方公共団体における公文書管理の現状に関する調査・研究	2,500,000円
34	東京都	早稲田大学高等研究所 講師 八尾 史 (やお ふみ)	「根本説一切有部律」写本の研究	2,700,000円
35	東京都	早稲田大学商学学術院 教授 矢後 和彦 (やご かずひこ)	開発と経済成長のプロソポグラフィ	900,000円
36	京都府	京都府立大学文学部 教授 山崎 福之 (やまざき よしゆき)	万葉集と懐風藻を中心とする、日本文学における中国文学受容の総合的研究	600,000円
37	大阪府	大阪大学大学院文学研究科 教授 湯浅 邦弘 (ゆあさくにひろ)	「天声人語」の名づけ親西村天因の見た近代日本	720,000円
38	東京都	東京大学大学院総合文化研究科 学術研究員 吉見 崇 (よしみ たかし)	戦後台湾の司法の独立をめぐる政治史的研究ー1950年代から60年代を中心としてー	600,000円
合 計				80,000,000円

第49回（2020年度）三菱財団人文科学研究助成先一覧

【大型連携研究助成】＜50周年記念特別助成＞

番号	所在地	名 称	使 途	金 額
1	京都府	龍谷大学文学部 教授 阿部 泰郎 (あべ やすろう)	地域と連携する宗教文化遺産の探査とアーカイブス化による文化遺産と社会の創成	6,000,000円
2	東京都	独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所無形文化遺産部 主任研究員 今石 みぎわ (いまいし みぎわ)	無形文化遺産における木材の伝統的な利用技術および民俗知に関する調査研究	6,500,000円
3	兵庫県	神戸大学大学院国際協力研究科 教授 柴田 明穂 (しばた あきほ)	南極のあるべき将来像：2025年日本開催会議にむけた総合的提案	7,500,000円

【一般助成】

番号	所在地	名 称	使 途	金 額
4	東京都	早稲田大学政治経済学術院 教授 稲継 裕昭 (いなつぐ ひろあき)	地方政府における生産性測定に向けた指標の構築に関する研究	2,100,000円
5	埼玉県	尚美学園大学大学院総合政策研究科 教授 奥乃 真弓 (おくの まゆみ)	AI・ロボットへの法人格付与における法的課題の研究	600,000円
6	京都府	立命館大学大学院社会学研究科 准教授 加藤 雅俊 (かとう まさとし)	環境紛争およびその処理過程がもたらした地域分断からの再生に関する研究 － 一軒の浦道路計画を事例として－	850,000円
7	茨城県	筑波大学芸術系 教授 黒田 乃生 (くろだ のぶ)	茅葺き民家のグローバリゼーション－ 茅輸出 中国の現状－	1,200,000円
8	岡山県	ノートルダム清心女子大学文学部 教授 紺谷 亮一 (こんたに りょういち)	中央アナトリアにおける都市形成過程の考古学的研究：キュルテペ遺跡の発掘調査	1,800,000円
9	千葉県	中央学院大学法学部 専任講師 坂井 亮太 (さかい りょうた)	熟議・審議会・会議に誰を呼ぶべきか－ 集合知の数理モデル群に対するシステムティック・レビュー手法の構築	1,000,000円
10	東京都	東京大学医学部附属病院 助教 榊原 英輔 (さかきばら えいすけ)	精神科医療における認識的不正義	2,200,000円
11	東京都	東京大学大学院人文社会系研究科 教授 佐川 英治 (さがわ えいじ)	中国古代の立碑習慣と社会結合	800,000円
12	新潟県	新潟大学人文社会科学系 教授 佐藤 靖 (さとう やすし)	現代科学技術の歴史的構造の我が国における様相の解明	1,200,000円

番号	所在地	名 称	使 途	金 額
13	東京都	立教大学社会デザイン研究所 研究員 真田 尚剛 (さなだ なおたか)	陸上自衛隊にとっての旧軍と大戦一駐屯地資料館の展示を手がかりに	1,000,000円
14	東京都	早稲田大学文学学術院 教授 嶋崎 尚子 (しまざき なおこ)	樺太引揚者の炭鉱移動と定着ーコミュニティ形成にみる経験の連続性	1,500,000円
15	東京都	東京工業高等専門学校一般教育科 講師 鈴木 慎也 (すずき しんや)	三次元計測による古代スリランカ貯水灌漑遺構に関する基礎的研究	1,300,000円
16	東京都	東京大学社会科学研究所 特任研究員 鈴木 路子 (すずき みちこ)	近代日本の赤十字：人道概念の形成過程と第二次世界大戦時救援活動を中心に	3,900,000円
17	京都府	竹内 潔 (たけうち きよし)	アフリカ熱帯森林帯における民族間共生の変容とレジリエンス	1,150,000円
18	東京都	早稲田大学先端社会科学研究所 准教授 鄭 成 (てい せい)	中国建国初期の中小学校教育におけるソ連宣伝の形成とその受容	1,000,000円
19	京都府	立命館大学産業社会学部 准教授 富永 京子 (とみなが きょうこ)	政治に対する冷笑と無関心の戦後史ー若者文化におけるメディア・コミュニケーションの視点から	1,100,000円
20	東京都	東京大学社会科学研究所 教授 中林 真幸 (なかばやし まさき)	民主主義の費用：政治献金の歴史制度分析	3,200,000円
21	東京都	東京大学大学院総合文化研究科 准教授 中村 元哉 (なかむら もとや)	冷戦期の中国・香港・台湾におけるナショナリズムとリベラリズム：1970～1980年代を中心に	1,050,000円
22	愛知県	愛知県立大学外国語学部 准教授 西野 真由 (にし の まゆ)	台湾における外国人単純労働者受け入れに関する実証研究ー日本の外国人労働者政策構築に向けてー	1,200,000円
23	大阪府	関西大学商学部 教授 西村 成弘 (にしむら しげひろ)	日本企業の特許管理形成に関する基礎的研究	2,400,000円
24	東京都	上智大学外国語学部 准教授 廣田 秀孝 (ひろた ひでたか)	アメリカ合衆国における連邦移民政策の形成過程と契約労働者	3,000,000円
25	東京都	早稲田大学教育・総合科学学術院 教授 堀越 宏一 (ほりこし こういち)	15・16世紀フランスの木造町家建築に関する建築史的調査・研究とその保存・活用をめぐる政策の分析	1,000,000円
26	東京都	早稲田大学文学学術院 教授 三浦 清美 (みうら きよはる)	ロシア精神の源流としての北ロシア文化の領域横断的研究ー文献学、歴史学、宗教学、民俗学の統合の試み	2,200,000円

番号	所在地	名 称	使 途	金 額
27	富山県	富山大学学術研究部 教授 三船 温尚 (みふね はるひさ)	江戸大仏の銘文と3Dスキャン調査による近世大型鑄銅仏の生産体制と技法の研究	3,500,000円
28	京都府	龍谷大学世界仏教文化研究センター 客員研究員 宮治 昭 (みやじ あきら)	ガンダーラ美術の図像データベースの構築と大乘仏教美術の生成に関する研究	1,950,000円
29	東京都	早稲田大学商学学術院 教授 宮島 英昭 (みやじま ひであき)	多様化するアクティビズムをいかに理解するか：株主提案・エンゲージメント・退出の実証分析	3,500,000円
30	宮城県	東北大学大学院文学研究科 准教授 茂木 謙之介 (もてぎ けんすけ)	戦後社会を中心とした皇室・皇族イメージの研究	1,600,000円
31	京都府	京都府立大学文学部 教授 母利 司朗 (もり しろう)	江戸時代の古典籍に描かれた和食文化の研究	2,400,000円
32	東京都	一橋大学大学院経済学研究科 准教授 森 宜人 (もり たかひと)	余暇をめぐる都市ガバナンスの比較史 — 歓喜力行団と厚生運動を中心に —	900,000円
33	沖縄県	琉球大学大学院法務研究科 教授 矢野 恵美 (やの えみ)	ジェンダーの視点から見た「犯罪者を親にもつ子ども」への支援と法	4,000,000円
34	東京都	早稲田大学文学学術院 教授 山本 聡美 (やまもと さとみ)	中世日本の環境と美術	2,200,000円
35	東京都	公益財団法人東洋文庫研究部 研究員 吉水 清孝 (よしみず きよたか)	インド古代～中世初期におけるパラモンと王との関係の研究：灌頂を受ける資格としての王の出自について	1,000,000円
36	東京都	東京大学先端科学技術研究センター 日本学術振興会特別研究員PD 渡部 沙織 (わたなべ さおり)	難病の公費医療制度と難病病床の研究	2,200,000円
合 計				80,000,000円

第3回（2021年度）
三菱財団文化財保存修復事業助成応募要領

1. 助成の趣旨

我が国の先人の残した文化的所産である文化財は、現在及び未来の貴重な国民的財産であり、その保存・修復は我が国の社会・文化の進歩・発展に貢献することになります。本財団は、上記に鑑み、設立趣意書に掲げた「文化の向上に資する」ことを目的に、設立50周年記念特別助成事業として2019年より人文科学研究助成の中に立ち上げた文化財修復事業助成を発展させ、今年度より本財団の自然科学研究助成、人文科学研究助成、社会福祉事業・研究助成に続く新たな助成事業として、文化財保存修復事業助成を実施することとします。

2. 助成の概要

①助成の対象

- イ. 文化財保護法第二条第1項に規定される有形文化財のうち、建造物を除く文化財（絵画、彫刻、工芸品、書跡、典籍、古文書その他の有形の文化的所産で我が国にとって歴史上または芸術上価値の高いもの並びに考古資料及びその他の学術上価値の高い歴史資料、以下「美術工芸品」という）の保存、修復。
- ロ. 日本国内に所在する、屋内展示可能なものに限りします。
- ハ. 保存、修復に伴う社会的意義の高いものを対象とします。
- ニ. 国宝・重要文化財（国指定）の保存、修復は対象外とします。

②応募資格

- イ. 保存、修復を必要とする上記美術工芸品の所有者（事情により管理責任者による申請も認めることがあります）。所有権を証明できる資料が必要な場合は提出して頂くことがあります。
- ロ. 営利企業等及びその関係者は対象外とします。
- ハ. 営利目的あるいは私的鑑賞を目的に文化財を所有または管理する法人及び個人も対象外とします。
- ニ. 申請者は、本財団の同一年度の助成に複数応募することは出来ません。
なお、複数応募が判明した場合は、失格となることがあります。

③助成金額

総額約2,500万円を予定。応募金額の上限は1件当り原則500万円とし、採択予定件数は12件程度を目途とします。なお、助成対象物の性質上、比較的少額で足りるものも充分考慮されます。

④助成金使途

- イ. 助成対象物の保存、修復事業に直接必要となる費用。
- ロ. 応募者が所属する組織等の間接経費・一般管理費等は助成の対象になりません。

⑤助成期間

助成を決定した年の10月から1年間を原則としますが、事情により開始月の変更及び複数年にわたる使用も認められることがあります（複数年度分の助成申込を一括査定し、助成金は各年に分けて使用されることとなります）。

⑥選考協力等

所定の申込書、推薦書の提出に加え、更に詳しい書類等の提出、助成対象物の確認、所有者（管理責任者）、推薦者への面接・ヒアリング等をさせて頂くことがありますのでご協力下さい。

⑦助成決定時の義務・条件

- イ. 選考の結果、助成対象者となられた場合は、財団所定の「助成承諾書」を別途提出頂き、これにより保存、修復事業の経過・完了の報告、収支会計報告、その他使途変更事前相談手続等の義務を負って頂く事になります。また、修復業者の修理報告書の写しを提出して頂きます。
- ロ. 保存、修復事業の修理体制の中に修理指導を行える専門の者を必ず置いて下さい。
- ハ. 本助成による保存、修復事業に伴う結果について当財団は一切責任を負いません。
- ニ. 保存、修復された美術工芸品については、文化財保護法第4条第2項の趣旨に則り、これを保存、公開する等、その文化的な活用を前提にして頂きます。保存、修復した対象物については転売を禁止します。
- ホ. 同美術工芸品の保存、修復事業が本財団の助成による保存、修復であることを公開時に明記して頂きます。
- ヘ. 保存、修復事業の経過・完了の当財団宛の報告については、当財団が公表することに同意をお願いします。
- ト. 助成金贈呈式を2021年9月13日（月）に予定しています。贈呈式には助成金受領者ご本人にご出席頂きます。やむを得ぬ場合は代理出席を認めるケースもあります。

3. 選考方法・結果通知等

①選考方法

- イ. 財団委嘱の下記委員からなる選考委員会において慎重審議の上、その答申案に基づき、2021年6月開催予定の財団理事会において正式決定されます。
- ロ. 選考においては、その保存・修復により価値の維持・向上が見込まれるかを主たる採択基準とし、文化財としての重要度、保存・修復の緊急度、保存・修復計画の妥当性、助成の必要性、社会的意義等を勘案します。

社会的意義の具体的事例としては、

- ・ 地方文化の発掘・維持・発展、地方活性化等「地方創生」への貢献
- ・ わが国文化を海外に発信することによる「国際交流」進展への貢献
- ・ 歴史学、社会学、宗教学を始めとする「学術振興」上の貢献
- ・ 文化財の保存、修復に係る「技術の維持・伝承や人材の育成」への貢献

等が挙げられます。

ハ、審査の進捗状況についてのお問い合わせには回答致しかねますので、ご了承下さい。

(選考委員)

小松 大秀 (委員長) 岩佐 光晴 林 温

(敬称略)

②結果通知等

イ、結果は決定後すみやかに申込者各位宛に書面またはメールで通知されます。なお「助成先一覧」は、本財団インターネットホームページ（以下、本財団ホームページ）上に掲載するほか各種学術関係広報資料（新聞、学会ニュース等）にも掲載を依頼致します。

ロ、採否の理由についてのご照会には一切回答致しかねますので、ご了承下さい。

4. 応募期間

2020年12月16日（水）～2021年1月13日（水）午後5時

*期間内に必着のこと

*応募書類を三菱財団事務局へ直接お持込みになることはご遠慮下さい。

5. 応募方法

①「助成申込書」の作成

応募にあたっては、本財団ホームページ上で作成した「助成申込書」を印刷し、申込者印もしくは代表者印（公印、法人・団体の場合）を押印の上、別途下記②で作成する「助成申込内容」と共に申込書一式として送付して下さい。

[ホームページアドレス]

<https://www.mitsubishi-zaidan.jp>

本財団ホームページ上で「助成申込書」を作成しただけでは助成の申し込みにはなりませんので、ご注意ください。

応募には下記②「助成申込内容」の作成及び「助成申込書」「助成申込内容」双方の送付が必須となります。

また、「ご応募の際によくある質問と回答」を本財団ホームページ上の「応募 Q&A」に掲載していますので、ご参照下さい。

<「助成申込書」作成の手順>

- i) 本財団ホームページ上の「助成について」より「文化財保存修復事業助成」を選択し「文化財保存修復事業助成申込書、助成申込内容(マイページ取得)」をクリックします。
- ii) Step1にある「マイページを取得する」ボタンをクリックすると、メールアドレスの登録画面が表示されますので、応募される方のメールアドレスを入力するとともに、助成金種類欄から「文化財保存修復事業助成」を選び、登録します。

- iii) 登録されたメールアドレスにマイページ登録用の URL がメールで届きますので、その URL にアクセスします。
- iv) パスワード設定画面が表示されますのでパスワードを入力、併せてパスワードを忘れた場合の秘密の質問・回答を登録します。
- v) ログイン ID が自動発行され画面に表示されると共にメールにも届きますので、発行された ID とパスワードを使い、マイページにログインします。
- vi) 基本情報の「編集」ボタンをクリックし、入力画面に進みます。
「申込者」「申込内容」「修復業者」「連絡責任者」の各項目を入力し、確認画面で入力内容のエラーチェックをした後、保存します。
- vii) 入力内容が確定したら「基本情報 Web 入力完了」ボタンを押します。
(注)「基本情報 Web 入力完了」ボタンを押すと、入力内容の変更はできなくなりますのでご注意ください。
- viii) 「助成申込書」(PDF) を表示・印刷し、申込者印を押印の上、下記②で作成する「助成申込内容」に表紙として付け、申込書一式正本 (5. ④ ロ.) として下さい。
(注) 出力した「助成申込書」(PDF) には、変更を加えないで下さい。内容の変更が必要な場合は、本要領 6 ページ記載の本財団事務局までご連絡下さい。

Web 操作に関するお問い合わせは、原則メールで、ヨシダ印刷株式会社 三菱財団サポート担当までお願いします。その際、マイページを取得されている場合は、ログイン ID を記載して下さい。

E-mail. mitsubishi-zaidan@yoshida-p.co.jp
Tel. (03) 3626-1307 (平日 午前 9 時～午後 5 時)

②「助成申込内容」の作成

- イ. 「助成申込内容」の書式は、本財団ホームページ上にて、“助成応募要領”と共に、12 月上旬以降、2021 年度分を掲載致します。
- ロ. 本財団ホームページ上の「助成について」より「文化財保存修復事業助成」を選択し、「文化財保存修復事業助成申込書、助成申込内容(マイページ取得)」をクリックします。
Step2. 「助成申込内容」の作成にて、Microsoft Word 書式で示してある「助成申込内容書式」をダウンロードの上、ご使用下さい。2021 年度以外の助成申込内容もしくは他の分野の助成申込内容を使用した申請は無効となりますので、ご注意ください。
- ハ. 文字数に制限がある項目以外に入力文字制限はありませんが、印刷時に表示されないことがあります。必ず印刷プレビューもしくは印刷物で確認して下さい。

<「助成申込内容」記入上のご留意点>

- i) 本助成金で実施予定の保存修復対象物の概要、保存修復事業について、保存修復事業の実施スケジュール、開示の方法、資金計画、社会的意義等を記入頂くとともに、保存修復対象物の画像を添付して頂きます。
- ii) 保存修復に係る費用について、業者の見積もりを添付して下さい。なお、業者の見積もりは応募時点では正式見積もりではなくても結構ですが、助成決定時には正式見積もりを提出頂きます。

③「推薦書」について

- イ. 本財団制定の「推薦書」を必ず添付して下さい。なお、推薦書の書式は12月上旬以降、「応募要領」「助成申込内容」とともに本財団ホームページ上に掲載します。
- ロ. 推薦者については、その美術工芸品の保存、修復事業にあたっての専門家の方（修理指導のできる方）に推薦を頂いて下さい。なお、修復業者及び申込者の関係者の方は推薦者になれません。

④申込書一式の提出と受付の確認

- イ. 申込書一式（「助成申込書」「助成申込内容」「推薦書」「業者の見積もり」及び付属資料）の提出は送付によります。なお、FAXあるいはホームページ上での受付、E-mailでの申込受付は致しません。
 - ロ. 申込書一式の送付（*印のものは必ず送付願います）
 - ・ *申込書一式正本（「助成申込書」「助成申込内容」「推薦書」「業者の見積もり」及び付属資料） 1部
 - ・ *申込書一式副本（上記申込書一式正本のコピー） 4部正本、副本ともに片面印刷（コピー）として下さい。また、「助成申込書」及び「助成申込内容」はセットのうえ、正本・副本共にそれぞれ左肩上でホチキスどめして下さい。
 - ・ *法人・団体申込の場合は定款（寄附行為）、役員名簿、資産負債の状況、活動状況がわかる案内書等を正本・副本全てに添付して下さい。
- ハ. 応募申込には、本財団ホームページ上で作成した「助成申込書」及び「助成申込内容」に加え、「推薦書」及び「業者の見積もり」の送付が必須となりますのでご注意ください。
 - ニ. 本財団で申込書一式を受理しましたら、「助成申込書」に記載された連絡責任者にメールでご通知致します。応募期間の最終日以降1週間を過ぎても受理メールが届かない場合は、本財団事務局までご連絡下さい。
 - ホ. なお、Web入力完了後に「助成申込書」に登録された基本情報の変更を希望される場合は、本財団事務局までご連絡下さい。
 - ヘ. ご提出頂いた申込書一式、添付資料等は返却いたしかねますので、あらかじめご了承下さい。

6. 個人情報取扱いについて

- ①個人情報は利用目的の範囲内で、かつ業務遂行上必要な限度内で利用致します。
- ②法令等の定める場合を除き、事前に本人の同意を得ることなく個人情報を第三者に提供致しません。

7. 反社会的勢力からの応募について

反社会的勢力および反社会的勢力と関係すると認められる個人もしくはグループからの応募は受け付けられません。

【申込書類提出先・お問い合わせ先】

公益財団法人 三 菱 財 団 事務局

〒100-0005 東京都千代田区丸の内2丁目3番1号（三菱商事ビル21階）

Tel. (03) 3214-5754

Fax. (03) 3215-7168

E-mail. info@mitsubishi-zaidan.jp

追記 参考資料として、本財団過去2回の助成先一覧を添付します。

応募件数と同金額は以下の通りです。

2019年度 46件 119百万円

2020年度 21件 51百万円

以 上

2020年11月

公益財団法人 三 菱 財 団

第48回（2019年度）三菱財団人文科学研究助成
 第1回（2019年度）三菱財団文化財修復事業助成先一覧
 <50周年記念特別助成>

番号	所在地	名 称	使 途	金 額
1	群馬県	群馬県立土屋文明記念文学館 館長 小笠原 祐治（おがさわら ゆうじ）	伝世尊寺定成筆『新古今和歌集』写本 及び伝世尊寺経朝筆『新古今和歌集』 古筆切修理	2,440,000円
2	滋賀県	浄厳院 住職（代表役員） 勝山 俊和（かつやま しゅんわ）	絹本着色 阿弥陀如来 来迎図（滋賀・ 浄厳院 蔵）の保存修復	2,000,000円
3	東京都	学習院大学史料館 館長 水野 謙（みずの けん）	勸修寺所蔵学習院大学史料館管理「麒麟 住吉図末廣（仙洞御所由来）」修復 事業	1,400,000円
4	埼玉県	法養寺薬師堂奉賛会 会長 辻 敏（つじ さとし）	法養寺薬師堂木造十二神将立像、木造 日光菩薩・月光菩薩立像保存修理事業	4,300,000円
5	東京都	共立女子大学博物館 館長 長崎 巖（ながさき いわお）	蒔絵化粧道具（遠鷹羽紋散松橋蒔絵調 度）のうち手拭掛の保存修復	1,490,000円
6	福島県	小野赤沼行政区 区長 西牧 正明（にしまき まさあき）	福島県指定重要文化財 木造阿弥陀如 来及び両脇侍像 修復事業	3,150,000円
7	京都府	宗教法人 光明寺 代表役員 榎林 誠雄（ばいりん せいゆう）	光明寺奉加帳修理事業	1,440,000円
8	北海道	枝幸町 枝幸町長 村上 守継（むらかみ もりつぐ）	目梨泊遺跡金銅装直刀修復事業	1,540,000円
9	兵庫県	公益財団法人 香雪美術館 理事長 広瀬 道貞（ひろせ みちさだ）	香雪美術館所蔵「帰来迎図」の修理事 業	2,240,000円
合 計				20,000,000円

第49回（2020年度）三菱財団人文科学研究助成
 第2回（2020年度）三菱財団文化財修復事業助成先一覧
 <50周年記念特別助成>

番号	所在地	名 称	使 途	金 額
1	沖縄県	八重瀬町 町長 新垣 安弘 (あらかき やすひろ)	字具志頭の龕及び付属葬具修復事業	3,030,000円
2	愛知県	公益財団法人徳川黎明会徳川美術館 館長 徳川 義崇 (とくがわ よしたか)	白・納戸細格子と茶・花色・黄・赤・ 白横縞腰替熨斗目保存修復事業	2,810,000円
3	石川県	白山市尾添区 区長 林 與枝男 (はやし よしお)	尾添白山社白山下山仏阿弥陀如来立像 修復事業	1,740,000円
4	北海道	恵庭市 市長 原田 裕 (はらだ ゆたか)	西島松5遺跡出土刀修復事業	3,140,000円
5	長崎県	特定非営利活動法人世界遺産長崎 チャーチトラスト 理事長 宮脇 雅俊 (みやわき まさとし)	大浦天主堂収蔵「ド・ロ版画及び版 木」研究調査・保存修復事業	1,970,000円
6	山形県	愛宕山常福院 住職 山口 知津子 (やまぐち ちづこ)	常福院不動明王立像外二軀修復事業	3,640,000円
7	愛知県	野田八幡宮 神社総代 山本 秀明 (やまもと ひであき)	鉄錆地塗紺糸緘塗込仏胴具足・尉頭形 兜保存修復事業	1,310,000円
8	京都府	宗教法人養源院 住職 吉水 一成 (よしみず かずしげ)	紙本着色豊臣秀頼像修理事業	2,360,000円
合 計				20,000,000円

歴博研研第 171 号
令和 2 年 12 月 7 日

関 係 機 関 長 殿

大学共同利用機関法人人間文化研究機構
国立歴史民俗博物館長 西 谷 大
(公印省略)

令和 3 年度国立歴史民俗博物館共同利用型共同研究の公募について

このたび本館では、別添の要項により共同利用型共同研究の公募を行うことになりました。
つきましては、貴機関所属の研究者及び大学院生（博士後期課程）にご周知くださいますよう
よろしくお願い申し上げます。

なお、令和 2 年 12 月 10 日（木）より、下記本館ホームページにおいても公募について掲載
しておりますので、ご覧いただけますと幸いです。

記

■国立歴史民俗博物館ホームページ（令和 3 年度共同利用型共同研究公募について）

https://www.rekihaku.ac.jp/research/list/joint/public_ad/index.html

以上

【本件連絡先】

国立歴史民俗博物館

研究協力課 研究教育係 共同研究公募担当

電話：043-486-6473（直通）

E-Mail：kenkyo@ml.rekihaku.ac.jp

令和3年度 国立歴史民俗博物館 共同利用型共同研究公募要項

1. 趣旨

共同利用型共同研究は、国立歴史民俗博物館が所蔵する資料や保有する機器・設備を用いて、館外の研究者が代表者となり、館内の専任教員とともに進める研究です。大学院生やポストドクターなどを含む若手研究者の応募を期待します。

2. 共同研究の趣旨と区分

本共同研究には、下記の二つの区分を設けます。希望する区分を明記のうえ応募してください。

- ①館蔵資料利用型…本館が所蔵する資料を対象とした、非破壊的手法（熟覧・記録・撮影）による調査・研究
- ②分析機器・設備利用型…本館が保有する分析機器や分析設備を用いた調査・研究

3. 対象となる資料および機器・設備

- ①館蔵資料利用型…「国立歴史民俗博物館館蔵資料データベース」
<https://www.rekihaku.ac.jp/doc/t-db-index.html>
から資料名を記入してください。

- ②分析機器・設備利用型… 別表の中から、機器・設備名を記入してください。

4. 共同研究の期間

令和3年4月以降に開始し、同年度内に終了することとします（最長12ヵ月）。

5. 応募資格

研究代表者の資格は、下記のいずれかに該当する者としてします。

- ・国内・海外の研究機関に所属する研究者（常勤・非常勤を問わない。また、ポストドクターを含む。）
- ・大学院博士後期課程の学生
- ・自治体の研究活動・業務に従事する常勤職員
- ・その他、上記の者に準じる研究の能力をもつ者

なお、②分析機器・設備利用型の応募者は、大学学部程度の化学関連科目を履修していることなど、一定の専門知識を有することが望ましい。

6. 研究組織

研究代表者と、利用する資料・機器・設備を担当する本館の専任教員1名で構成します。

7. 研究内容と成果報告

担当する専任教員との打合せや協議を行いながら、①②それぞれの趣旨に沿って研究を進め、当該年度末までに研究成果報告書を提出します。また、共同研究終了後、研究成果を、『国立歴史民俗博物館研究報告』（通常号）に投稿できます。

8. 研究経費

原則 30 万円以内とし、次の費目に支出することができます。

①館蔵資料利用型…旅費等

②分析機器・設備利用型…旅費、分析に用いる消耗品費、分析委託費等

9. 公募件数

7 件程度。ただし、本館の専任教員 1 名につき 1 件を原則とします。

10. 申請方法

共同研究計画については、「令和 3 年度国立歴史民俗博物館共同研究計画書」（以下よりダウンロードしてください）を作成し、それぞれ所属長の承認を得て提出してください。

[計画書ダウンロード（本館 Web ページ URL）]

https://www.rekihaku.ac.jp/research/list/joint/public_ad/index.html#b

なお、応募にあたっては、利用する資料・機器・設備を担当する本館の専任教員と連絡をとり、資料や機器・設備の利用の段取り等、研究計画についての認識を共有していただくことを奨励しています。担当教員については、「14. 問い合わせ先」にメールでご相談ください。

- ・研究代表者が研究機関・自治体等に所属している場合は、予め所属機関（の部局）の長の了承を得た上で、必要に応じて、所属先の同意書（様式自由）を添付してください。
- ・研究代表者が大学院生である場合は、指導教員の推薦書（別紙様式）を添付してください。
- ・申請書類（共同研究計画書等）の電子データを「14. 問い合わせ先」のメールアドレス宛に添付してお送りください。（電子メールでご提出ください。）

11. 留意事項

- ・研究代表者が大学院生である場合は、「学生教育研究災害傷害保険」または同等の傷害保険に必ず加入してください。所属機関がない参加研究者についても、同等の傷害保険に加入していただく必要があります。
- ・本共同研究における知的財産等の取扱いに関する事項は、人間文化研究機構知的財産規則に定めるところによります。

12. 計画書等の提出期限

令和 3 年 1 月 22 日（金）（必着）

13. 選考及び選考結果の通知

共同研究計画書に基づき選考を行い、2 月末までに申請者に通知します。また、選考の結果、採択されなかった申請者の計画書等は返却いたしません。

14. 問い合わせ先

〒285-8502 千葉県佐倉市城内町 117 番地

国立歴史民俗博物館 管理部研究協力課研究教育係 共同研究公募担当者 宛

TEL：043-486-6473 FAX：043-486-6484

E-Mail：kenkyo@ml.rekihaku.ac.jp

令和3年度 国立歴史民俗博物館 共同利用型共同研究計画書（新規）

研究課題名		(日本語)			
		(英語)			
研究区分 ※どちらかにチェックを入れてください。		<input type="checkbox"/> 館蔵資料利用型 <input type="checkbox"/> 分析機器・設備利用型			
研究対象資料名／ 研究で使用する 科学解析機器名					
研究組織		氏名	所属機関・職名 [所属大学・研究科・専攻・学年]	若手研究者 35歳以下◎ 39歳以下○	専門分野
	研究申請者 (代表者)				
	館内担当教員				
研究内容	※研究の目的および特徴について、具体的に書いてください。				
	<div style="border: 1px dashed red; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> ※参加する若手研究者の人数を集計しています 令和3年4月1日現在35歳以下の方は◎印、39歳以下の方は○印を付してください </div>				
研究計画	※研究の目的を達成するための具体的な研究計画・方法について、明確に書いてください。				

研究成果と公表方法

※期待される成果と、その成果をどのように公表するかについて、具体的に書いてください。

令和3年度の経費の内訳	① 旅費	月別	事項(場所)	日数	人数	金額(単位:円)	備考
			※資料調査、成果に基づく学会発表等				
	小計						
	② 消耗品 購入・ 分析 委託費	品名・事項		単価	数量	金額(単位:円)	備考
	小計						
	③ その他	事項		単価	数量	金額(単位:円)	備考
	小計						
	総計						

推 薦 書

令和 年 月 日

国立歴史民俗博物館長 殿

指導教員

所属・職

氏 名 _____ 印

貴博物館の共同利用型共同研究の代表者として下記の者を推薦いたします。

記

推薦する学生の氏名・所属大学・研究科・専攻・学年			
ふりがな		所属大学・研究科・ 専攻・学年	
氏名			
研究課題名			
推薦理由（業績を含む）			

共同利用型共同研究の対象となる分析機器・設備一覧

分析機器・設備名		規格	歴博での分析例
AMS- ¹⁴ C 法支援機器		下記参照	<ul style="list-style-type: none"> ・¹⁴C 年代測定試料の調製 ・炭素・窒素安定同位体分析試料の調製 ・酸素安定同位体分析試料の調製
内訳	自動 AAA 処理装置	光信理化学製作所 K-RI-C K-RS-C	
	グラファイト精製装置	光信理化学製作所 KS-MK-5 K-R0-L K-RS-EL	
	元素分析計	Thermo 社 Flash EA 1112	
マルチコレクタ ICP 質量分析計 (MC-ICP-MS)		Thermo Fisher Scientific 社 NEPTUNE PLUS	<ul style="list-style-type: none"> ・鉛同位体比の測定 (青銅製品などの産地推定分析等) ・ストロンチウム同位体比の測定 (人骨による生育地推定分析等)
X 線分析顕微鏡		HORIBA (堀場) 社 XGT-5200SL	<ul style="list-style-type: none"> ・元素分析 (錦絵色材の分析等) ・元素マッピング解析
蛍光 X 線分析装置 (XRF)		JEOL (日本電子) 社 JSX-3201M	<ul style="list-style-type: none"> ・元素分析 (漆の顔料分析, 金属製品の化学組成分析, 製鉄工程の判定分析等)
電子線微小部分分析装置 (EPMA)		JEOL (日本電子) 社 JXA-8200	<ul style="list-style-type: none"> ・微小部の観察と元素分析 (金属製品の材質分析等)
特性 X 線検出器付 低真空電子顕微鏡 (SEM-EDX)		JEOL (日本電子) 社 JSM-6010LA	<ul style="list-style-type: none"> ・微小部の観察 (遺跡出土種実同定, 土器の種実圧痕の分析, 金属製品の観察等) ・微小部の元素分析
高温用赤外線サーモグラフィ		JENOPTIK 社 VarioTHERM basic	<ul style="list-style-type: none"> ・炎の逐次温度測定 (鍛冶技術の数値的分析) ・高温時の加工品の温度測定
赤外線カメラシステム		下記参照	<ul style="list-style-type: none"> ・木簡の文字判別 ・漆紙文書の文字判別
内訳	InGaAs カメラ	浜松ホトニクス社 C10633	
	カメラコントローラー	浜松ホトニクス社 C2741-62	

令和4年 月 日

国立歴史民俗博物館長 殿

氏名 _____ 印

令和3年度共同利用型共同研究成果報告書

ふりがな	
氏名	
所属・職名又は 大学院・研究科・専攻	
共同研究員（本館教員） 職・氏名	国立歴史民俗博物館研究部 研究系
研究課題	
使用した資料及び 機器・設備	
研究期間	自 年 月 ～ 至 年 月
研究内容	<p>〔別紙〕 研究成果の要約（600～800字程度）を冒頭に書き、 研究の経過・内容・成果について、 A4判2,000字～4,000字程度（図表等を含む）で作成 すること。</p> <p>※研究成果の要約は『年報』とHPで公開。</p>

令和2年11月吉日

大阪大学
総長 西尾章治郎 様

特定非営利活動法人
中村元記念館東洋思想文化研究所
理事長 清水谷 善圭

第7回中村元東洋思想文化賞論文推薦の御願い

拝啓 貴学におかれましては、時下益々ご盛栄のこととお慶び申し上げます。
当法人は、東洋思想研究の世界的権威として松江名誉市民を贈られました故中村元博士の顕彰を目的として、平成24年10月に中村元記念館を開館いたしました。

このたび次世代を担う大学生・大学院生に対する助成を目的として、卒業論文、修士論文を対象とした第7回中村元東洋思想文化賞を実施する運びとなりました。つきましては、私どもの意の有るところをご賢察の上、是非とも論文のご推薦を賜りますようお願い申し上げます。別添の推薦用書類一式も併せてご高覧頂ければ幸甚に存じます。

末筆ではございますが、貴学の益々のご隆盛をお祈り申し上げますとともに、書中をもってお願い申し上げます。

敬具

特定非営利活動法人 中村元記念館東洋思想文化研究所

(担当：鷺見・加藤)

〒690-1404 島根県松江市八束町波入 2060

TEL: 0852-76-9593 Fax: 0852-76-9693

info@nakamura-hajime-memorialhall.or.jp

【第7回中村元東洋思想文化賞 概要】

1、趣旨

中村元博士の開拓された東洋思想研究を志す大学生・大学院生のすぐれた論文を広く顕彰し、今後の研究を奨励することを目的とする。

2、対象分野

インド哲学・仏教学、中国思想などの東洋思想、または比較思想にかかわる分野。

3、募集

全国の国公立大学および私立大学（約100校）。

4、推薦

①**2020年度**に提出された日本語による卒業論文または修士論文であること。

②推薦期間：**2021年3月1日(月)**から**2021年3月21日(日)**必着。

③自薦の論文は審査対象外とする。

5、選考

中村元東洋思想文化賞選考委員会において受賞者を決定します。

一次審査：6月頃、最終選考：7月頃

<選考委員>

- 委員長 前田専學（東京大学名誉教授・中村元記念館東洋思想文化研究所所長）
- 委員 丸井 浩（東京大学名誉教授・公益財団法人中村元東方研究所常務理事）
- 委員 渡邊寶陽（立正大学名誉教授）
- 委員 小島 毅（東京大学大学院教授）
- 委員 吉田宏哲（大正大学名誉教授）
- 委員 渡辺章悟（東洋大学教授）
- 委員 枳 悟震（東方学院講師・中村元記念館東洋思想文化研究所副所長）

6、発表

2021年10月10日(日)に、記念館 web サイトにて受賞者の氏名、論題、提出先の大学名を公表します。なお、受賞論文に社会通念上不適切な行為が判明した場合、受賞を取り消す場合があります。

※受賞者には別途連絡いたします。

7、授賞等

原則として各賞1名とし、受賞者には賞状と副賞として奨励金を贈呈します。

- ・優秀賞 賞状および副賞（奨励金20万円、記念品）
- ・松江市長賞 賞状および副賞（奨励金10万円、記念品）
- ・奨励賞 賞状および副賞（奨励金10万円、記念品）※卒業論文対象。

授賞式は、**2021年10月30日（土）**に中村元記念館（松江市八束町波入2060 松江市八束支所2階）において行う予定です。

8、お問合せ先

〒690-1404 島根県松江市八束町波入2060 松江市八束支所2階

中村元記念館東洋思想文化研究所「文化賞応募」係宛

Tel : 0852-76-9593 Fax : 0852-76-9693

e-mail : info@nakamura-hajime-memorialhall.or.jp

9、協賛企業

※中村元東洋思想文化賞は以下の企業にご協賛いただいております。

山陰酸素工業株式会社（本社：鳥取県米子市）

堀田石油株式会社（本社：鳥取県境港市）

美保テクノス株式会社（本社：鳥取県米子市）

一般財団法人ごうぎん財団（所在地：島根県松江市）

【第7回 中村元東洋思想文化賞 実施日程】

内容	日程
推薦期間	2021年3月1日（月）～3月21日（日）必着
発表	2021年10月10日（日）
授賞式	2021年10月30日（土）

【第7回 中村元東洋思想文化賞 応募要項】

1、受付期間

2021年3月1日（月）～2021年3月21日（日） 必着

2、応募書類

下記（1）～（4）を送付してください。なお応募いただいた書類一式は返却いたしません。また書類等不備の場合は、審査対象外となりますのでご注意ください。

- （1）推薦書 ※1
- （2）審査用論文の写し1部
- （3）論文要旨（氏名題目を含み日本語で2,000字程度）
- （4）上記（1）～（3）の電子化ファイル（PDF形式）※2

※1 記念館 web サイト (<http://www.nakamura-hajime-memorialhall.or.jp/ronbun.html>)

より入手してください。取得した個人情報は、本事業にかかわる事務以外には使用しません。

※2 ファイル転送サービスをご利用いただくか、下記メールアドレス宛に送信してください。

3、選考結果の通知

2021年8月頃に受賞者本人に直接通知いたします。

発表日(2021年10月10日付)で所属大学の長、推薦者に結果を郵送いたします。

4、授賞式

2021年10月30日（土）に中村元記念館（松江市）で行う予定です。

※会場までの交通費・宿泊費等は受賞者のご負担となります。

5、書類等の送付先・お問合せ先

〒690-1404 島根県松江市八束町波入 2060 番地 松江市八束支所 2 階

中村元記念館東洋思想文化研究所「文化賞応募」係 宛

e-mail : info@nakamura-hajime-memorialhall.or.jp

電話 : 0852-76-9593 Fax : 0852-76-9693

第7回中村元東洋思想文化賞 推薦書

応募論文	区 分	<input type="checkbox"/> 学部卒業論文 <input type="checkbox"/> 大学院修士論文	
	論文題目		
論文執筆者	所属大学		
	学部・研究科等		
	学科・専攻等		
	ふりがな 氏 名	⑤	
	生年月日（西暦）	年	月 日生
	現住所	〒	
	電話番号		
	e-mail アドレス		
推薦者	推薦理由		
	指導教員	職 名	
		氏 名	印
	学部長または 研究科長	職 名	
		氏 名	印

令和2年11月吉日

各位

仁和伝法所
所長 鈴木義晃
(公印省略)

令和3年度 仁和伝法所 若手研究助成のご案内

謹啓 向寒の候 ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

私ども仁和伝法所は、真言宗御室派総本山・仁和寺に所属する、真言密教の法流・教義・宗史等の研究および教育をおこなう組織です。

さて、このたび弊所では「令和3年度 仁和伝法所 若手研究助成」事業を実施する運びとなりました。

現在、研究者を取り巻く環境は分野を限らず過酷の一途をたどっており、弊所はこれを憂慮しております。特に、若手研究者が独創的な調査研究テーマとそれを遂行する能力をもちながら、経済的事情によりその実現を阻まれてしまうことは、あってはならないことであります。

また、真言密教ならびに仁和寺は、優れた学問的成果を享受しつつこれまで存立発展を続けてまいりました。有用な調査研究を、その恩恵を受ける者自身の手で守ってゆくことは当然のつとめであります。

そこで弊所では、若手研究者による優れた調査研究に対し、金銭による助成をおこないたいと存じます。これを通じて、真言密教および仁和寺をめぐる学術研究を進展させること、ひいては仏教文化の興隆に資することを目指しております。

つきましては、貴所にご関係のある方々にご周知いただきたく、別紙の通りご案内申し上げます。

新型コロナウイルスがもたらした災禍は未曾有のものとなりつつあり、研究活動のみならず、あらゆる社会的な営みが切断と衰退の危機に瀕しています。何事においても先を見通しづらい状況ではありますが、弊所は学問の灯をたやさぬよう力を尽くしてまいります。

末筆ながら、皆様のご健康と益々のご発展をお祈り申し上げます。

敬白



令和3年度 仁和伝法所 若手研究助成 募集要項

この制度は、若手研究者による優れた調査研究に対し、金銭による助成をおこなうものです。それを通じて、真言密教および仁和寺に関わる学術研究の進展、また仏教文化の興隆に寄与することを目的としています。

1. 助成の対象となる調査研究テーマについて

下記の4点をすべて満たして下さい。

- ① 真言密教の法流・教学・歴史、または仁和寺に関わる内容であること。
- ② 仏教学、文学、歴史学（考古学、文献史学、美術史学を含む）、またはそれに関わる分野の調査研究手法を用いること。
- ③ 未発表、かつ本助成以外の助成事業に採択（併願を含む）されていない内容であること。
- ④ 応募者個人による調査研究であること。

2. 応募資格

下記の2点をすべて満たすものとします。

- ① 昭和56年（西暦1981年）4月2日以降の生まれであること。
- ② 過去に本助成を受けていないこと。

※日本国籍、僧籍の有無は問いません。ただし、仁和伝法所所員および仁和寺役職員は応募できません。

3. 助成の対象となる調査研究期間

令和3年4月1日～令和4年3月31日

4. 助成の概要

下記の2点をすべて満たすものとします。

- ① 1件あたり50万円以内であること（助成は総額150万円以内を予定）。
- ② 助成金の使途は、研究に直接関わる書籍、文書、備品、消耗品の購入費用、および調査や研究内容の発表に係る旅費交通費、論文の執筆投稿などに係る経費とする。ただし、パソコン、デジタルカメラなどの機材購入費、旅費については節度ある申請をすること。また、人件費、食糧費は認めない。

※応募は一人につき1件のみとします。また、審査の結果により申請金額に対して実際の助成金額が減額される場合があります。

5. 採択者の義務

下記の2点をすべて満たして下さい。

- ① 調査研究の成果を発表する場合は、本助成を受けたことを必ず明記し、また仁和伝法所に連絡すること。
- ② 令和4年3月31日までに、「研究成果報告書」（論文形式、原稿用紙30枚以上）、「研究成果の概要」（原稿用紙3枚程度）、助成金使途の領収証またはレシートを添えた「会計報告書」を作成し、仁和伝法所まで郵便にて提出すること。

※「研究成果報告書」などの書式や提出の方法については、採択通知の際にお知らせします。

6. 募集期間

令和3年1月16日～令和3年3月15日（締切日必着のこと）

7. 応募方法

下記の手順により応募をおこなって下さい。

- ① 「申請書」を仁和伝法所ウェブページよりダウンロードして下さい。
- ② 「申請書」に必要事項を入力の上、Eメールにて仁和伝法所 (denposho@ninnaji.jp) まで提出して下さい。
- ③ 仁和伝法所にて「申請書」を受信後、3月22日までに返信をおこない、受付を完了した旨お知らせします。返信がない場合には、仁和伝法所までお問い合わせ下さい。

※「申請書」は必ず応募者本人が作成し、日本語にて入力して下さい。Microsoft Word、またはPDFファイル形式にて提出して下さい。手書き入力は認めません。

8. 募集結果の発表

助成の採否とその金額は、総本山仁和寺における審査を経て決定します。応募者には令和3年5月末日頃にEメールにて採否の通知をおこないます。採択者には期限内に必要な書類をご提出いただき、その上で6月末日頃に助成金を交付する予定です。

※審査の過程および結果についての質問には応じられません。

9. 特記事項

- ・本助成の申請に関して取得する個人情報、審査やその結果の通知などに関する業務に限って取り扱います。
- ・採択を受けた調査研究について不正行為が発覚した場合、採択の中止、または支給した助成金の返還を求めることがあります。

10. 過去の採択テーマ

- ・「寺院文献調査に基づく近世真言密教における新安流の形成と展開に関する研究」
柏原康人 氏（大阪大谷大学 非常勤講師）
- ・「室町期における仁和寺の展開に関する歴史学的研究—御室と真光院の動向を中心に—」
高鳥廉 氏（北海道大学大学院文学研究院 特別研究員）
- ・「両部曼荼羅の図像解釈に関する基礎研究—日本における解釈史の変遷を中心に—」
中村夏葉 氏（愛知県立芸術大学 教育研究指導員）

11. 応募先

〒616-8092 京都府京都市右京区御室大内 33

総本山仁和寺 仁和伝法所（担当：泰地 翔大）

TEL：075-461-1155 FAX：075-464-4070

Eメール：denposho@ninnaji.jp

ウェブページ URL：http://www.ninnaji.jp/denpou/

※原則、Eメールにてお問い合わせ下さい。

以上

令和2年12月

各 位

公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構
(アジア太平洋フォーラム・淡路会議事務局)

時下 ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

アジア太平洋地域の多様な文化が共生する“新たなアジア太平洋のビジョン”の構築と発信をめざす「アジア太平洋フォーラム・淡路会議」(代表理事:井植 敏)は、「アジア太平洋研究賞」(井植記念賞)を設け、アジア太平洋地域に関する優れた人文・社会科学領域の博士論文を顕彰しています。

この度、第20回受賞候補論文を募集しますので、ぜひご推薦を賜りますようお願いいたします。

記

- 対象

日本の大学院で学んだ日本人および留学生等で、平成28年3月以降に当該大学院博士課程を修了し応募時点において学位取得済(平成28年3月以降に単位取得退学し、その後博士の学位を取得している場合も可)、かつ大学院の指導教員から推薦を受けた者

- 論文

1. アジア太平洋地域における「多文化共生社会」の実現に資する人文・社会科学領域の研究をテーマとする論文であること。
2. 当賞に初めて応募する論文であること。

- 提出期限

令和3年4月16日(金)【必着】

- 受賞者及び賞の内容

受賞者数 2名程度

賞の内容 本賞:表彰状及び副賞(100万円)

- その他

応募・ご推薦に際しては募集要領をご覧ください。

【アジア太平洋フォーラム・淡路会議ホームページにも募集要項を掲載しております。
また過去の受賞者については、同ホームページの「顕彰事業」をクリックすればご覧いただけます。】

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

人と防災未来センター東館6F

公益財団法人 ひょうご震災記念21世紀研究機構

(アジア太平洋フォーラム・淡路会議事務局)

TEL: 078-262-5713 FAX: 078-262-5122

E-mail: gakujutsu@dri.ne.jp

HP: <https://www.hemri21.jp/awaji-conf/>

第20回「アジア太平洋研究賞」(井植記念賞) — 募集要項 —

アジア太平洋地域の多様な文化が共生する“新たなアジア太平洋のビジョン”の構築と発信をめざす「アジア太平洋フォーラム・淡路会議」(代表理事：井植 敏)は、「アジア太平洋研究賞」(井植記念賞)を設け、アジア太平洋地域に関する優れた人文・社会科学領域の博士論文を顕彰しています。

第20回受賞候補論文を次のとおり募集しますので、奮ってご応募ください。

■ 主 催

アジア太平洋フォーラム・淡路会議

■ 後 援

朝日新聞社(予定)

■ 対 象

日本の大学院で学んだ日本人および留学生等で、平成28年3月以降に当該大学院博士課程を修了し応募時点において学位取得済(平成28年3月以降に単位取得退学し、その後博士の学位を取得している場合も可)、かつ大学院の指導教員から推薦を受けた者。

■ 論 文

1. アジア太平洋地域における「多文化共生社会」の実現に資する人文・社会科学領域の研究をテーマとする論文であること。
2. 当賞に初めて応募する論文であること。

■ 応募期間

令和2年12月10日(木)～令和3年4月16日(金)必着

■ 応募書類

1および2の①～④のすべてを応募期間内必着で送付のこと。【持参不可】

1. 所定の推薦書(ホームページからダウンロード可)

2. 添付書類(日本語または英語表記に限る)

①～③はA4判紙媒体、④は電子媒体にて提出のこと

①博士論文 1部(製本・未製本いずれも可)

②論文要旨 1部(片面1枚)

③②の要約文 1部(300字以内)

④上記①～③のPDFデータを保存したCD-ROM又はUSBメモリ

上記①～③それぞれを独立した3つのPDFファイルとし、ファイル名には執筆者名を入れて日本語または英語で保存のこと。

(例：①博士論文のPDFファイル「淡路太郎 博士論文.pdf」)

*博士論文が書籍化されている場合は、書籍1部を合わせて提出すること。なお、提出された書籍は、審査終了後に返却します。

応募書類に不足・不備がある場合は、応募を受け付けないこともあります。
書籍以外の応募書類は返却しません。

- 論文の選考
研究賞選考委員会において審査・選考を行います。

- 受賞者数および賞の内容
 - (1) 受賞者数 2名程度
 - (2) 賞の内容 本賞：賞状および副賞100万円

- 審査・選考結果の発表
 - (1) 受賞者の発表は、令和3年7月頃の予定です。
 - (2) 選考結果については文書で通知します。
 - (3) 受賞論文の要旨を淡路会議年次報告書に掲載します。

- 授賞式
令和3年8月6日（金）（淡路夢舞台国際会議場で開催予定）

- 提出先（お問い合わせ先）
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 人と防災未来センター東館6F
公益財団法人 ひょうご震災記念21世紀研究機構内
「アジア太平洋フォーラム・淡路会議」事務局

TEL：078-262-5713
FAX：078-262-5122
E-mail：gakujutsu@dri.ne.jp
ホームページ：<https://www.hemri21.jp/awaji-conf/>

The 20th Asia Pacific Research Prize (Iue Prize)

—Application Outline—

The Asia Pacific Forum, Awaji Conference Japan, which aims to create and spread a “new Asia Pacific vision” of symbiosis among the diverse cultures of the Asia Pacific region, established the Asia Pacific Research Prize (Iue Prize) to reward outstanding dissertations in the field of humanities or social sciences relating to the Asia Pacific region. Applications for the 20th Asia Pacific Research Prize (Iue Prize) are invited under the following conditions:

- **Organizer**
Asia Pacific Forum, Awaji Conference Japan

- **Support**
The Asahi Shimbun (tentative)

- **Eligibility**
Japanese, international students and others who have officially enrolled in a post-graduate course at a Japanese graduate school and have been conferred a doctorate from such institution after March 2016. A letter of recommendation is required from the advisor of the graduate school.

- **Dissertation**
 1. The dissertation should detail research in the humanities or social sciences that contributes to the realization of a “multicultural symbiotic society” in the Asia Pacific region.
 2. Dissertations submitted in previous years are not acceptable.

- **Application Deadline**
April 16, 2021

- **Application Documents (non-returnable)**
All documents 1. and 2.1. to 2.4. listed below must arrive by Friday April 16, 2021: Submitting in person is not acceptable.
 1. Prescribed Letter of Recommendation (downloadable from the website shown below)
 2. Supplementary documents (either in Japanese or English)
Documents 2.1. to 2.3. must be submitted as A4 sized-paper copies and 2.4. in an electronic medium:
 - 2.1. Copy of the dissertation (either in sheets or bound)
 - 2.2. Outline of the dissertation (one page; single-sided printing)
 - 2.3. Summary of the outline (120-word summary of the outline of the dissertation mentioned above)
 - 2.4. Recording medium such as a CD-ROM or USB flash drive containing PDF data of 2.1. to 2.3. shown above. Each document must be saved as an individual PDF file under the applicant’s surname, e.g. “SMITH dissertation.pdf”.

* If your dissertation has been published, submit a copy of the book. It will be returned afterwards.

Note that the application may not be accepted if any of the application documents are missing or incomplete.

- Selection of Prizewinners

The selection committee of the Asia Pacific Research Prize will review the dissertations to select prizewinners.

- Number of Prizewinners and Prize Details

1. Number of prizewinners: Approximately two
2. Details of prize
Main Prize: Prize certificate and a prize of 1,000,000 yen

- Announcement and Notification of the Results

1. The name of the prizewinners will be announced in July 2021 (tentative).
2. The result of the selection will be notified in writing.
3. The outline of the prizewinning dissertations will be published in our annual report of the Awaji Conference.

- Awards Ceremony

To be held on Friday August 6, 2021 at the Awaji Yumebutai International Conference Center.

<Address for Submission of Applications and Contact Details>

Secretariat of the Asia Pacific Forum, Awaji Conference Japan

Address: East Bldg. 6F, 1-5-2, Wakinohamakaigan-dori, Chuo-ku, Kobe, Hyogo, Japan 651-0073

TEL: +81-(0)78-262-5713

FAX: +81-(0)78-262-5122

Website: <https://www.hemri21.jp/awaji-conf/english/index.html>

E-mail: gakujutsu@dri.ne.jp

アジア太平洋地域の多文化共生に向けた政策提言をする「アジア太平洋フォーラム・淡路会議」(井植敏・代表理事)が7月、第19回アジア太平洋研究賞(井植記念賞)の本賞に中央大学政策文化総合研究所客員研究員の海野典子さん(34)と共立女子大学国際学部専任講師の岡部正義さん(36)を選んだ。

アジア太平洋研究賞に2氏



こうした「二見教義とは矛盾しているが、イスラムの存



海野さんは、中国の少数民族、ムスリム(イスラム教徒)の回族が20世紀初頭の華北地域で周囲のイスラム教に對する偏見や他宗教との衝突の中、いかにして信仰を保持してきたかを研究した。

たとえば、賭博行為として教義で禁じられている宝くじをモスクで販売し、その利益を宗教学校の運営や貧民救済の資金にしたり、反イスラム的と認識されていた辮髪をあえて維持し、辮髪に固執する年配者や周囲との対立を回避したりする宗教指導者がいた。

中央大学政策文化総合研究所客員研究員 海野典子さん

中国少数民族の信仰保持策に迫る

海野さんは、中国の少数民族、ムスリム(イスラム教徒)の回族が20世紀初頭の華北地域で周囲のイスラム教に對する偏見や他宗教との衝突の中、いかにして信仰を保持してきたかを研究した。

率や成績が男子よりも高い傾向にある。データ分析から、男子は父親、女子は母親の教育水準との相関が強いとの結果を得た岡部さんは、男子が女子に比べて1日のうちで労働(父親の仕事の手伝いなど)や遊びに長い時間を費やしていることを明らかにした。

さらに、「男子は怠惰、女子は勤勉」という類型化されたイメージ(ステレオタイプ)の影響で、女性教員の多いフィリピンの学校で男子が女子よりも敵しく成績をつけられているという実態を解明し、そのことが男子の教育不振を増幅している可能性を示唆。問題解決には、貧困の改善とステレオタイプの緩和を両輪とした政策が必要と示した。

選考では、漢語や欧文、テュルク語など多言語の文献を幅広く実証的に利用し、問題に独創的にアプローチした点が高く評価された。

また、母親が就労している場合に、娘たちは働く女性というロールモデル(手本)を母親に見いだし、学習時間を増やす可能性があると論じた。そのうえで、農村では父親が低所得のため、母親が子供の養育と就労による生計維持という「二重の責務」を負

選考では、周到な現地調査や詳細な統計分析、的確な政策提言が高い評価を得た。この賞は、朝日新聞社が後援している。(池田洋一郎)

岡部さんはフィリピンの農村地域に3年間滞在し、教育問題について研究。大量の各種統計資料の分析と、子供や親、教師らへのインタビュー調査を通して、解決へ向けた政策提言をした。

フィリピンでは女子の就業

この賞は、朝日新聞社が後援している。(池田洋一郎)

共立女子大学国際学部専任講師 岡部正義さん

フィリピンでの教育問題に政策提言